

平成29年度第8回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「秋の水路で魚釣り & センター企画展ツアー」

を実施しました。

開催日時：平成29年10月14日（土）午前10時00分から午後2時15分まで
開催場所：霞ヶ浦環境科学センターおよびかすみがうら市戸崎 霞ヶ浦そばの農業水路
参加者：38名

今回の自然観察会は、今年度第1回自然観察会を行った霞ヶ浦そばの農業水路を使い、釣りによる魚の観察会を行いました。また当日は霞ヶ浦環境科学センター展示室で特別企画展が開催中であり、その企画展ツアーも行いました。

当日はあいにく小雨が降ったり止んだりの天候でしたが、38名もの参加者が集まりました。朝の予報では午後のほうが降水確率はやや低くなっており、予定を変更して、午前特別企画展ツアーを行い、午後に水路での魚釣りを行うことにしました。

特別企画展ツアーでは、中国の四大家魚（アオウオ、ソウギョ、コクレン、ハクレン）の迫力ある大きな剥製が多く参加者の印象に残ったようでした。また、魚の生体展示水槽では、子どもの参加者に餌をあげる体験をしてもらいました。特に午後の釣りのターゲットになるギンブナ、モツゴが入った水槽では、イメージトレーニングになるようにじっくりと餌を食べる様子を観察してもらいました。

昼食・休憩をはさんで午後はいよいよ農業水路での魚釣りの時間になりました。センターを出発した際、雨は上がっていたのですが、バスを降りて水路へ向かっている間にパラパラと雨が降り出し、その後も小雨が降ったり止んだりの状態が続きました。それでも参加者のみなさんは雨合羽などの雨対策をばっちりしており、雨にも負けない魚釣りへの強い意気込みが感じられました。

水路に到着後、諸注意や竿の扱い方等を説明したあと、早速釣りを開始しました。数日前から急に寒くなったため、魚の活性が低くなり、釣り辛いのではないかと心配しましたが、まもなく「釣れた！」の声が上がりはじめました。ギンブナ、モツゴ、テナガエビを中心にコイも釣れました。釣れるのは小さな未成年魚が中心のため、頻繁に浮きにアタリが出るものの、なかなか針掛かりせず、それがますますみなさんの「釣りたい！」の気持ちを熱くさせたようでした。それでも最終的にはほとんどの参加者が魚を釣ることができ、ひとりで8匹もの釣果を上げた小学生もいました。

春の観察会では、たも網を使い、この水路に産卵のために上がってきたフナやコイの親魚や、それらが産んだ卵を観察しました。そのときの卵が孵って、この場所で育ち、秋に魚釣りの対象になるくらい大きくなっていることを今回確認し、この水路が魚のゆりかごとして重要な役割を果たしていることがわかりました。

今回、天気悪い中、当日参加されたみなさん、パートナーのみなさん、本当にありがとうございました。

環境活動推進課 福井正人

観察会の様子の一部を御紹介します。



中国の四大家魚の剥製の大きさにびっくり！



魚の餌やり体験中です。



実釣開始です。



釣れたよ！



今回の中では大物です。



8匹釣った天才釣り師です。



小さな水路がいきものを育みます。